

## 9 和田地域まちづくり構想

### 9-1 地域の現状

和田地域 位置図

#### ■概況

本地域は、焼津市の中央東部に位置し、面積は約 491ha で地域の約 7%を占めています。昭和 30 年に和田村から焼津市に編入されました。

地域内には和田浜海岸や松林、栃山川などの特徴ある河川、木屋川沿いの桜並木、まとまりのある農地など多くの自然的な要素があり、それらとともに集落が存在し、田園風景を形成しています。

水産加工センターや流通加工団地、栃山川水門、ディスカバリーパーク焼津などの施設があり、自然・人・まちが共存した新しい地域の魅力が形成されています。



#### ■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 8,253 人、世帯数は 3,272 世帯となっており、近年は人口、世帯数ともに減少傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。特に、平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 31.3%で、高齢化率が 3 番目に高い地域となっています。

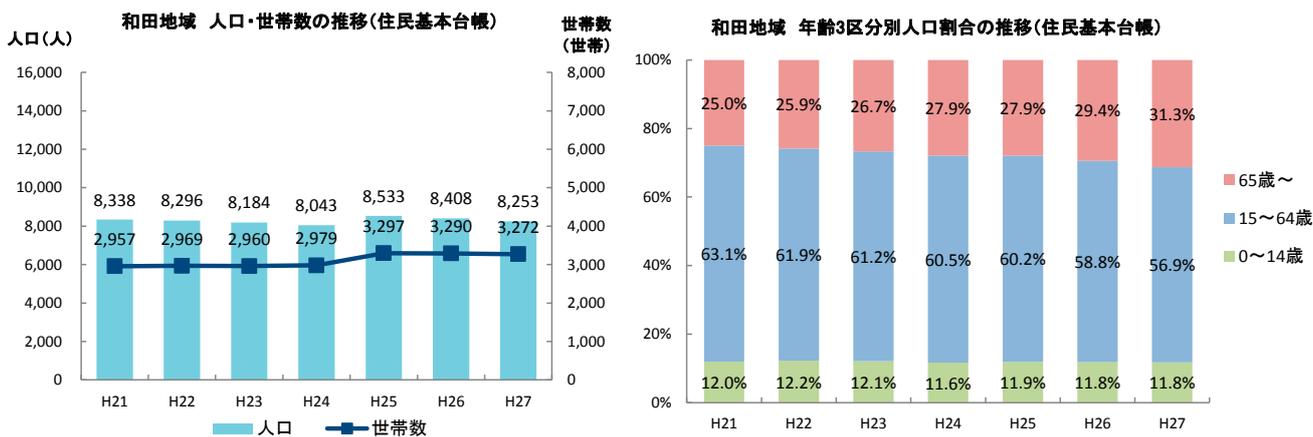


図. 和田地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移  
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

## 9-2 地域の将来像

### 和田地域の将来像

- 誰もが安全・安心・元気に暮らせる、人にやさしいまち
- 豊かな自然環境に心が癒されるまち
- 地域の絆を強め、災害から命を守るまち

## 9-3 地域のまちづくりの課題

### ◎良好な暮らし環境の創出とにぎわいづくり

- ・ ディスカバリーパーク焼津や和田浜などの観光資源を有効活用し、地域住民の憩い・交流の場や、観光客の交流の場とする取組が必要です。
- ・ 地域全体に広がる緑豊かな自然環境や田園風景を保全するとともに、これらに調和した住環境や工業環境を創出する必要があります。
- ・ 和田公民館を中心として、公共交通などによる日常生活を支える移動手段の充実を図るとともに、子どもから高齢者まで、誰もが安全・安心に通行できる歩行者空間を創出する必要があります。

### ◎自然資源の保全と有効活用

- ・ 木屋川や栃山川においては、地域住民の憩いの場や水とのふれあいの場とする必要があります。また、地域の景観資源となっている木屋川の桜並木や和田浜海岸の松林は、今後も保全を図るとともに、緑のネットワークづくりなどによりさらに魅力を高める必要があります。
- ・ 和田浜海岸の駿河湾を一望できる美しい景観と松林などの緑豊かな自然は、地域のみならず焼津市の貴重な緑の資源となっていることから、地域住民や観光客が憩い、安らぐ場として保全・活用することが必要です。
- ・ 地域の自然や歴史・文化を守るため、地域住民が主体となった取組が必要です。

### ◎地域の活力向上と、地震・津波などの自然災害への備えの充実

- ・ 地域活動の中心地である和田公民館などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・ 地震による津波被害の防止・軽減を図るため、田尻浜などにおける津波対策を進めるとともに、避難地や避難路の整備などによる安全確保を図る必要があります。
- ・ 大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、栃山川や成案寺川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・ 過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

## 9-4 地域のまちづくり方針

### ① ディスカバリーパーク焼津や水産流通加工団地などを活かした、交流を創出するまちづくり

- ・天文科学館と温水プールを核にしたディスカバリーパーク焼津を有効活用して、市民や観光客との交流の場などを提供し、にぎわい創出など観光振興を図ります。
- ・水産加工センターや水産流通加工団地などが立地する環境共生型工業地（P19 参照）においては、周辺環境と調和した工業地としての機能を維持し、良好な生産機能の強化を図ります。また、遊休農地や耕作放棄地の有効活用の検討を踏まえながら、農業環境の維持・保全を図ります。
- ・和田公民館、和田小学校、和田中学校など、周辺一帯の安全・安心・快適な交通環境の向上を図るとともに、子どもや高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。



ディスカバリーパーク焼津  
(天文科学館)

### ② 木屋川や和田浜海岸の松林など、地域の自然資源を活かしたまちづくり

- ・成案寺川、木屋川、一色・横須賀川沿いの桜並木など地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。
- ・和田浜海岸では、松林の適切な保全に努め、駿河湾や富士山を望む海辺景観を保全するとともに、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。
- ・成道寺など地域ならではの歴史文化資源を守り、活かすための地域独自の景観まちづくりを推進します。



和田浜海岸と松林

### ③和田公民館や和田小学校などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 潮風グリーンウォークなどを活用した防災・減災まちづくり

- ・ 地域活動の中心地では、学校教育と生涯学習、多世代交流等の機能を複合化した地域交流の拠点となる施設を整備して、子どもや高齢者まで誰もが、集い、憩うことのできる場づくりを行うなど、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、周辺一帯の安全・安心・快適な交通環境の向上を図ります。



和田公民館

- ・ 地震による津波被害を防ぐため、駿河海岸（田尻浜区間）において粘り強い防潮堤の整備を促進します。特に栃山川以南の海岸部においては、粘り強い防潮堤と併せて、盛り土部に植林し、散策路を設ける「潮風グリーンウォーク」の整備を推進します。
- ・ 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、木屋川、栃山川、成案寺川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・ 地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。

